

学部4回生・大学院生のための
日本語文献探索のキソ

卒論・研究きちんとスタート！シリーズ①

2025.6 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当（参考調査カウンタ）

皆さんこんにちは。
e-learning教材「学部4回生・大学院生のための 日本語文献探索のキソ」をご覧ください、ありがとうございます。
この教材は、人文・社会科学分野の学部4回生・大学院博士前期課程1年生の方を対象にした内容となっています。

「卒論・研究きちんとスタート！」 シリーズのラインナップ

- ①学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ
必要と思われる文献の書誌情報を得る
- ②学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法
得た書誌情報をもとに実際に論文を入手する



[図書館Webサイト](#)にてe-learning教材を公開中！



「卒論・研究きちんとスタート!」シリーズは2つの教材で構成されています。

1つ目が、この教材「学部4回生・大学院生のための日本語文献探索のキソ」です。

文献探索を行い、自分にとって必要と思われる文献の書誌情報（論文のタイトル、著者名、雑誌名といった情報のこと）を入手する方法を学びます。

2つ目は「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」です。

文献の書誌情報をもとに、今度は論文の本文を入手する方法について詳しく学びます。

図書館のWebサイトでe-learning教材を公開中です。興味のある方はぜひご覧ください

本講習会の目標

学習目標1：

先行研究調査とは何かを知り、その意義を説明できる

学習目標2：

「芋づる式」調査の方法を理解し、先行研究調査に活用できる

学習目標3：

文献データベースの効果的な利用方法を理解し、先行研究調査に活用できる

3

この教材の学習目標は3つあります。

「前置きは良いから、とりあえず、効率的に文献を検索する方法を教えてください」と思われるかもしれませんが、先行研究調査の意義と全体像を理解してから文献探索を行わないと、必要な文献を取りこぼしてしまう恐れがあります。この教材では、順を追って説明をしていきますので、全体像を理解したうえで、効率的な調査方法を学ぶことができます。

本講習会の構成

1. 先行研究調査とは何か
 2. 「芋づる式」による先行研究調査
 3. 文献データベースについて（概要）
 4. 文献データベースによる日本語図書の先行研究調査
 5. 文献データベースによる日本語論文の先行研究調査
ーCiNii Researchを事例に
- 補遺. シソーラスを備えたデータベース

この教材は5つの構成になっています。
第1章が学習目標1に、第2章が学習目標2に、第3章から第5章が学習目標3にそれぞれ対応しています。

1. 先行研究調査とは何か



では、第1章「先行研究調査とは何か」を始めます。

先行研究調査とは？

自分の研究したいテーマについて、
どのような研究がすでに為されているのかを把握すること

【手段】文献を「適切に」集めて読む

なぜなら、研究は基本的に雑誌論文や学術書など「文献」の形で発表されるから

6

「先行研究調査」とは、自分の研究したいテーマについて、どのような研究がすでに為されているのかを把握することです。研究の最初に踏むべき手順と言えます。

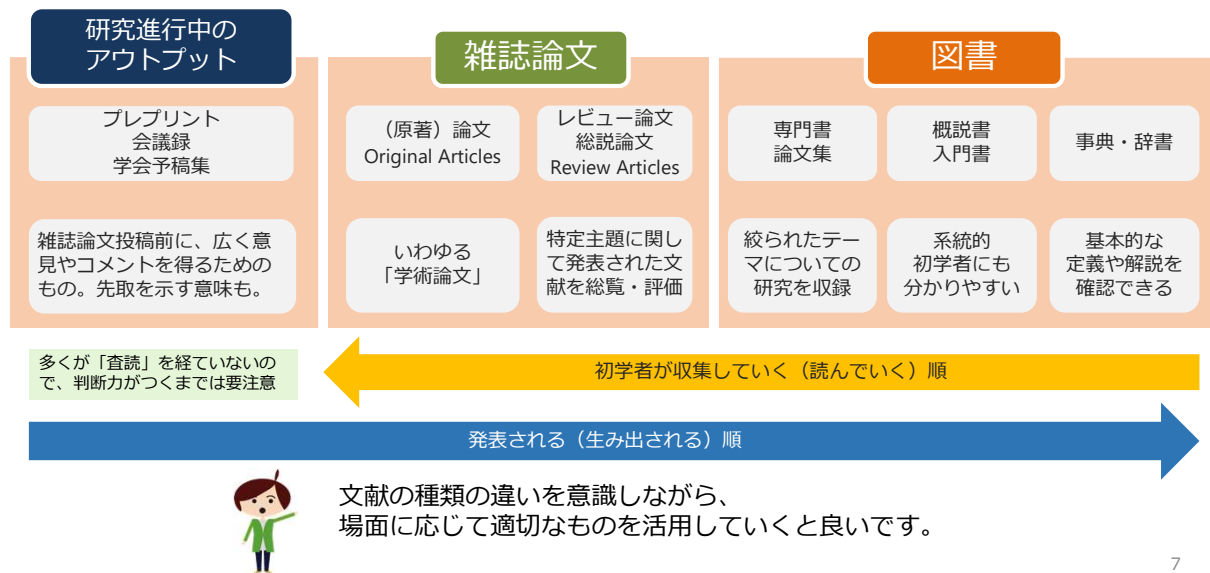
皆さんが論文作成や研究を行う時に、先行研究調査を行う必要があるのはなぜでしょうか。

それは、研究は主に、雑誌論文や学術書などの「文献」の形で発表されるためです。

こうした文献を「適切に」集めて読むことが、先行研究調査の基本的な手段となります。

この教材を通じて、文献を「適切に」集めることについて理解することができます。

研究の流れと学術文献の関係



一口に「文献」といってもさまざまな種類があります。主なものをスライドの図にまとめました。

大きくくりとして右端の図書、それから中央の雑誌論文があります。ただし、図書に分類される論文集と、雑誌論文に分類されるレビュー論文は、似通った性質を持ちます。

また、左端の研究進行中のアウトプットの図の中のプレプリントや会議録などは、研究分野によって学術文献として流通することもあります。

研究は、まず論文として生み出されたあと、別の研究者によって引用され、議論されます。時間がたつほど議論が深まっていき、共通の認識となり、図書としてまとめられることが多いです。

さて、先行研究調査というと、まず論文を探して読む、というイメージがないでしょうか？

しかし、その専門分野をこれから学習して行こうという段階では、系統的にまとまった知識が得られる「図書」、具体的には事典や辞書、概説書や入門書などから読んで理解を深めていくのがよいでしょう。

つまり、研究成果が生み出される順と、初学者が読んでいく順は逆になります。こういった事典や辞書を確認していくことから、先行研究調査は始まります。

先行研究調査の意義：「学習者」として

自分の研究テーマ周辺の全体像をつかむ

学習として（既存の認識や専門用語を知る）

研究史を把握する

調査手段や分析手段を知る

事典類や概説書で
定義や解説、研究史を理解する

↓

専門書や論文で
研究における実際の活用事例を知る

先行研究の限界や問題点・意見が対立している点を整理する

自分の研究テーマを設定していく・絞っていくための大きな手掛かりとなる

⇒研究者としての意義にもつながる

8

先行研究調査には「学習者」と「研究者」の2つの意義があります。

学習者としては、自分の研究テーマ周辺の全体像をつかみ、分野の認識や専門用語、研究史、調査・分析手段を学べます。

最初に事典や概説書で基本を理解したうえで、専門書や論文で実際の研究方法を学ぶと効果的です。

さらに、先行研究の限界や問題点を整理することもできます。このことは、自分の研究テーマを設定して絞っていくための大きな手掛かりとなり、また、この次に説明する研究者としての意義にもつながっていくといえます。研究者によって意見が対立している点にも着目・整理しておく、研究テーマ設定の助けにもなるでしょう。

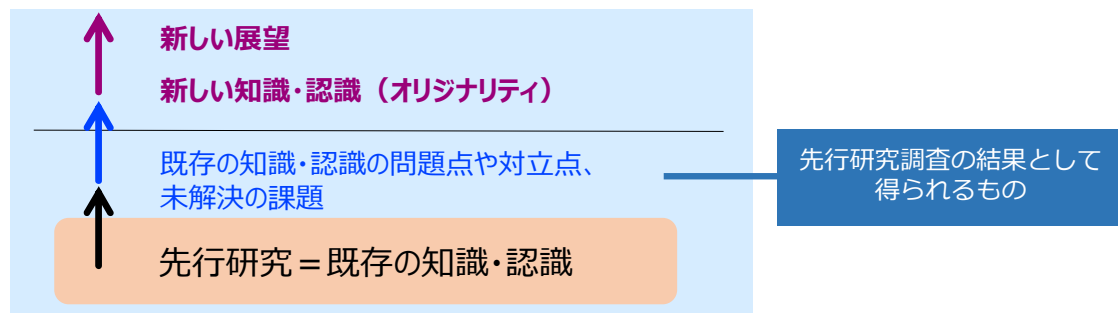
先行研究調査の意義：「研究者」として

自分の研究テーマが「新しい」ことを確認し、他者に示すため

研究 = 既存の知識・認識に新しい知識・認識を追加すること

「新しさ」もさまざま：事象として、理論として、切り口として

論文では、既存の知識・認識を示したうえで、「新しい」知識・認識を論証していく



9

「研究者」として先行研究調査をする最大の意義は、自分の研究テーマが「新しい」ことを確認し、他者に示すことにあります。

研究とは、既存の知識に新しい知見を加える営みです。その新規性を判断するには、関連する先行研究を広く調べる必要があります。求められる「新しさ」の水準は、研究分野や学術的な段階によって異なります。たとえば、卒業論文で求められる「新しさ」と、博士論文で求められる「新しさ」とは大きく異なりますので、指導教員の助言を受けながら進めることが重要です。論文では、先行研究を踏まえたうえで、自身の研究の意義を明確に示すことが求められます。

このように、先行研究調査は学習とともに、研究には欠かせないプロセスといえます。

2つのアプローチ

参考文献をたどる[芋づる式] : 2章

注目した論文を軸に、引用をたどっていく

メリット：研究の流れを掴みやすく、理解を広げやすい

デメリット：参照関係に含まれていない関連文献を見落とす可能性

文献データベースによる検索 : 3～5章

キーワードを使って、文献情報を検索する

メリット：適切に活用すれば、多くの文献を発見可能

デメリット：使い方を誤ると、見逃しが多く発生する

10

ここからは、先行研究調査の2つのアプローチを紹介していきます。

1つ目は、参考文献をたどる、「芋づる式」という方法です。研究の流れを把握できるというメリットがあり、特に初学者にとっては、理解を広げる有益な方法ですが、直接参照されていない関連文献を見落とす可能性がある点には注意が必要です。

2つ目は、文献データベースによる検索です。「文献探索」と聞いてまず思い浮かべるのはこちらだと思います。メリットは、多くの文献を発見できること、一方、デメリットとして使い方がよくないと、見逃しが多く発生してしまう可能性があるということです。

人文社会科学系の日本語文献データベースは、検索機能があまり充実していないものが多いため、使い方を工夫しないと、うまく活用できないことがあります。本日の後半で、このようなデメリットを回避できるよう、文献データベース検索のコツを紹介します。

2. 「芋づる式」による 先行研究調査



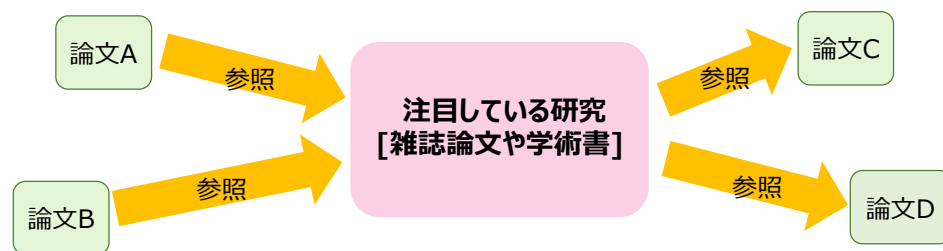
この章では、先行研究調査のアプローチのうちの1つ、「芋づる式」について詳しくみていきます。

芋づる式：“連なり”としての研究

研究は独立しては存在しないもの

これまでの研究の積み重ねがあって、新しい研究が生まれる

参照した先行研究は、**注や参考文献リスト**として明示するのがルール

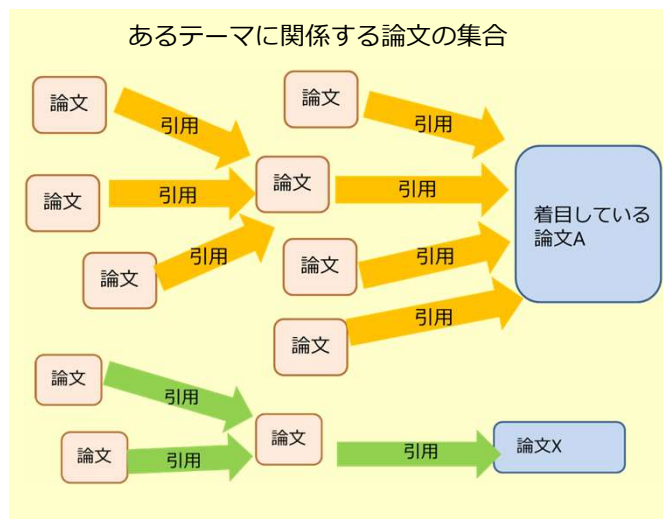


12

中央に注目している研究があります。その研究は他の論文の内容を参照したうえで行われています。そしてこの論文も次の研究に参照されていきます。このように研究とは独立して存在するものではなく、他の研究との連なりとして存在しています。

雑誌論文や学術書には、必ず参考文献リストというものがついています。他の文献を参照した場合には、参考文献リストとして明示する、というのが研究の世界のルールになっています。

芋づる式：強みとその限界



強み：

無駄無く、過去の関連研究へ遡ることができる

限界：

- ①文献リストに挙げられていない
関連研究を見逃してしまう
- ②着目している文献よりも後に
発表された論文は別に探索する
必要がある

その研究のルールを踏まえて、注目している研究の参考文献リストから関連論文をさかのぼっていく、というのが芋づる式の基本的な調査方法です。

この方法は、研究の流れをたどりやすいというメリットがあります。スライドの図のように関連する過去の研究へとさかのぼっていただけますね。
データベース検索では、どうしてもテーマと関係ない論文も混ざってきってしまうので、「芋づる式」は無駄のない調査方法であるといえます。

デメリットとしては、芋づる式だけに頼ると、参照関係に無い、他の関連文献を見逃す恐れがあります。

さらに、この方法では過去にしか遡ることができないので、自分が参照している論文より新しい論文については別途調査が必要です。

研究初期段階における芋づる式の活用法

新しい文献からたどる

基本的に、新しい文献はそれまでの研究を踏まえている

専門的なテーマの論文からではなく、基本文献からたどる

そのテーマを大きく俯瞰して研究史を整理したような基本文献からたどり始める
ほうが漏れが少ない

専門的なテーマの論文の文献リストは、その論文で特に必要な文献に絞って
まとめられている = 限られた範囲でしか芋づるをたどれない

どのような文献であっても、参考文献リストに掲載する文献の選別には、
著者・編者の問題意識や評価が入ってきます。
1つの文献からの芋づる式調査ではどうしても漏れが生じるので、
複数の文献を併せて活用するようにしましょう。



14

研究の初期段階、すなわち、研究史を把握していく、という段階での、芋づる式活用法の基本ルールを2つ挙げます。

まず1つ目は、新しい文献を起点にする、ということです。
基本的には、新しい文献はそれまでの研究成果を踏まえているはずです。どの文献を起点にするか迷ったときは、より新しい文献からたどりはじめると良いでしょう。

2つ目は、専門的なテーマの論文ではなく、基本文献を起点にする、ということです。
専門的なテーマの論文の参考文献リストは、その論文にとって重要な専門的な文献に絞られていることが多いため、限られた範囲でしか調べられないことがあります。
テーマ全体を広く俯瞰し、研究史を整理した基本的な文献から調べ始めると、先行研究調査で漏れを防ぎやすくなります。

研究初期段階で起点とする基本文献

参考図書（事典・辞書・ハンドブック・便覧など）

各項目の解説中の参考文献⇒そのテーマの基本文献の可能性が高い

参考図書の中でも、専門家コミュニティで編集されているもの（学会名で編集されている、各項目ごとに専門家が分担執筆している等）がオススメ

概説書・入門書

その分野の代表的な概説書・入門書に挙がっている参考文献

初学者向けの文献リストが用意されているものも



15

初めてそのテーマの先行研究調査を行うときに、芋づるの起点とするのにとくにお勧めなのが、このスライドに示すような文献です。

まず1つ目は、参考図書（事典・辞書など）です。調べたいテーマの基本文献を探す出発点になります。特に、専門家や学会などその分野の専門家によって編集されたものは、解説や参考文献の信頼性が高く、有用です。総合図書館A棟2階には参考図書コーナーがあります。一部はデータベースや電子ブックでも利用できます。

2つ目は、概説書や入門書は、その分野の基本的な知識を学ぶのに適した学術書で、教科書や参考文献として挙げられていることも多く、基本文献である可能性が高いです。初学者向けの読書案内が付いているものもあるため、有効活用できます。総合図書館では、A棟3階・4階の学習用図書エリアや新書コーナーに置いているものがあります。

研究初期段階で起点とする基本文献

専門書

専門書の序章などで、研究史の整理がされていれば起点として有効

レビュー論文

そのテーマに関する文献を総覧・評価⇒多くの文献への起点となる

統一的な名称はないが、例えば「レビュー」「総説」「課題と展望」「現状と展望」「回顧と展望」といった論題が付けられている

雑誌によっては、定期的にレビュー論文が掲載されるものもある

16

基本文献としてさらに、専門書とレビュー論文について紹介していきます。

専門書は、内容が高度なので少し難しく感じるかもしれません。たとえば、最初の章、たとえば序章などに、これまでそのテーマがどのように研究されてきたか、いわゆる「研究史」を整理してくれていることがよくあります。その研究史の中で挙げられている文献を出発点にすれば、重要な文献を効率よく見つけることができます。専門書は、総合図書館のA棟3階・4階の学習用図書エリアのほか、より専門的なものはA棟5階の研究用図書エリアや書庫棟にもあります。

続いて、レビュー論文です。レビュー論文というのは、あるテーマについて過去の研究をまとめて紹介し、評価するタイプの論文です。ここから、多くの関連文献をたどることができます。タイトルに「レビュー」「総説」「課題と展望」「現状と展望」「回顧と展望」などといった言葉が含まれていることが多いです。学術雑誌の中には、定期的にレビュー論文を掲載しているものもありますので、そうした雑誌をチェックするのも一つの方法です。

とはいえ、「どの文献を起点にすればいいか」を見極めるのは、初めて研究に取り組む人にはなかなか難しいことです。まずは自分で候補を探してみて、そのうえで、よりよい出発点がないかどうか、指導教員の先生にアドバイスをもらおうとよいでしょう。初学者の段階を過ぎて研究が進んできたら、注目した文献を手がかりに、関連する文献を自分なりに取捨選択しながら探していく、「芋づる式」

の調査ができるようになります。

3.文献データベースについて（概要）



この章からは、先行研究調査のもう1つのアプローチとして、文献データベースの活用について紹介していきます。

GoogleやGoogle Scholarは 先行研究調査に向いていない

網羅性の問題

収録範囲が示されていない＝何を検索できているか分からない

⇒できるだけ広く文献を探したいという先行研究調査の趣旨との齟齬

検索性の問題

検索条件を細かく設定できない、並び替えや絞り込み機能の弱さ

書誌情報が整理されていない

正確な書誌情報が得られないと選別・入手作業へ進むのが難しい

※とくにGoogleは、対象が学術情報（学術文献）に限定されていない

ノイズ（求めている情報＝ここでは学術文献でないもの）がかなり多い

18

文献の「検索」と聞くと、まずGoogle、Google Books、Google Scholarを思い浮かべる方も多いかもしれませんが、先行研究調査という目的で使用するには、問題が3つあります。

1つ目は、網羅性の問題です。Google Scholarなどでは、どのような文献を収録対象としているのか、その基準が公開されておらず、ブラックボックスとなっています。

重要文献が収録対象から漏れている可能性を排除できません。

2つ目は、検索性の問題です。検索条件を細かく設定できなかったり、並び替えや絞り込み機能が弱かったりします。また、検索結果の上位に表示される文献がどういうふうに使われているのか、こちらも基準が公開されていないので分かりません。

3つ目は、書誌情報が整理されていないことです。書誌情報というのは、論文のタイトル、著者名、掲載雑誌名、出版年などのことを指します。

表示される書誌情報がばらばらなため、検索結果から必要な文献を選ぶのが難しいことがあります。また、書誌情報が不十分なものも含まれているため、その情報だけでは文献を入手するのが難しい場合もあります。

とくにGoogleは学術情報を探すためのものではありませんので、ノイズが多すぎるといえる問題があります。

情報が全く見つからず困ったときや、何から学習を始めればよいか分からないときに、Google BooksやGoogle Scholarは役立つこともありますが、あくまで補

助的なツールとしてお使いください。

生成AIツールは 先行研究調査に向いていない

便利な生成AIツールだが、文献検索への導入にあたっては
注意すべきポイントが複数ある

- ハルシネーション（Hallucination、誤情報の出力）
- 網羅性（必ずしもその分野の重要文献が提示されるわけではない）
- 送受信したデータの取扱い

学術論文検索が得意なAIツールは複数存在する。しかし……

上記の問題からは逃れられない

補助的なツールとしてご利用ください

19

ChatGPTやGemini、Copilotなどの生成AIは、Web検索結果を取り入れた回答、情報の要約、音声入力対応などの機能もあって、調べものに便利です。しかし、先行研究調査に使うには注意が必要です。

1つ目は、誤情報のリスクがあります。実在しない文献をもっともらしく示す「ハルシネーション」が起きることがあります。回答内容の裏付けが必須です。2つ目は、網羅性に問題があります。参照データや検索結果の選定基準が不透明で、重要な文献が漏れてしまう恐れがあり、情報の偏りがある可能性があります。3つ目は、プライバシーの懸念があります。入力内容がツール提供者に共有される可能性があり、未発表の研究内容などの取り扱いには注意が必要です。

ElicitやScispaceなどの論文検索AIツールも同様の課題を抱えています。そのため、生成AIも、未知の分野を調査するときや検索キーワードが思いつかないときの補助的なツールとして、調査のきっかけをつかんだり、調査後に抜け漏れがないか確認するといった用途での利用にとどめるのが適切です。

対象に応じてツールを使い分ける

学術文献の検索に特化したデータベースが多数存在する

阪大で契約しているデータベースは有料のものも多い

学術文献も対象によって使う文献データベースが異なる

区分としては…研究分野、日本語文献と海外文献、図書と雑誌論文

使い分けの必要がある、というのは一般の情報検索と同じ

カレー屋を検索するサイトと、ホテルを検索するサイトは違う

「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト＝文献データベースがある
ということ意識する

20

Googleのような検索エンジンとは別に、世の中には、学術文献の検索に特化した専門のデータベースが多数存在します。

そして検索する学術文献が、どの研究分野の文献か、日本語文献か海外文献か、図書か雑誌論文かといった点によって、使うべき文献データベースは異なってきます。

対象による使い分けがあるというのは、一般的な情報検索と同じです。

例えば、美味しいカレー屋さんを検索するサイトと、旅行先のホテルを検索するサイトは違いますよね。

「学術文献」という対象の中でも、さまざまな検索サイト、すなわち、文献データベースがある、ということ意識してください。

文献データベースの機能

文献データベースのメイン機能

文献情報（＝書誌情報）を収集・整理して提供すること

付加価値としてのPDFファイルやフルテキストリンク

あくまでそのデータベースが提供できる範囲でのファイルやリンク

大阪大学で読むことができる論文が、全て利用できるようになっていない

大阪大学で読むことができる論文＝良い論文とも限らない

先行研究調査では、検索と入手を切り分けて考えよう！

文献データベースでは、まず「検索」に専念し、書誌情報を得る

21

ここで、文献データベースの機能について理解していただきたいことをお伝えします。

まず、文献データベースのメインの機能は、収集した書誌情報を整理して、検索する人に提供することです。

提供されているのは「書誌情報」というところがポイントです。

最近では、文献データベース上でPDFファイルなど、全文を読めることが多いのですが、それは付加的な機能と考えてください。

データベースで見られるのは一部の論文だけで、すべての論文を読めるわけではありません。重要な論文が読めないこともあります。

また、大阪大学で読める論文が良い論文とも限りません。その研究分野で鍵となる論文が残念ながら大阪大学では読めない、ということもあります。

先行研究調査では、検索と入手を切り分けることが大切です。

文献データベースでは、まずは「検索」に専念して、必要と思われる論文の書誌情報を入手することに専念しましょう。

4.文献データベースによる 日本語図書の先行研究調査



ここからは、文献データベースを使った、日本語図書の先行研究調査について解説していきます。

適切なデータベースの選択：図書

図書のデータベース ≡ 蔵書検索システム

基本的には、所蔵しているかどうか / どこに所蔵しているのかを調べるためのもの
図書として出版されている先行研究の調査にも利用できる

所蔵している機関によって収録データベースが異なる

大阪大学の蔵書 → 「**大阪大学OPAC**」

※各大学にOPAC (Online Public Access Catalog) がある

国内の大学・研究機関の蔵書をまとめて → 「**Cinii Books**」

国立国会図書館+都道府県立図書館+政令指定都市立中央図書館 → 「**NDLサーチ**」

都道府県内の公共図書館をまとめて → 「**カーリル**」 「**大阪府立図書館横断検索**」等

海外の図書館 → 「**WorldCat**」等

図書を扱うデータベースは、多くの場合、どこにあるか、所蔵情報を調べるための蔵書検索システムとして使われますが、先行研究が図書の形で出ている場合の調査にも使えます。ただし所蔵機関によって収録データベースが違っている、ということを意識してください。

機関ごとに作成されているものもあれば、複数の機関の蔵書をまとめて検索できるものもあります。

適切なデータベースの選択：図書

日本語の学術書の検索は、基本的には以下の2つで足りる

CiNii Books	国内のほとんどの大学・研究機関の図書館所蔵資料を検索できる
国立国会図書館サーチ (NDLサーチ)	国立国会図書館法によって、国内で出版された図書は国立国会図書館への納入義務があるため、国内で出版されたほぼ全ての図書が所蔵されている さらに全国の都道府県立図書館、政令指定都市立図書館の所蔵資料も検索できる

24

日本語の学術書の先行研究調査は、基本的にCiNii Booksと国立国会図書館のNDLサーチの2つを使えば十分です。

CiNii Booksには、国内の大学と研究機関の所蔵情報が収録されていますので、まずはCiNii Booksを活用するのが基本となります。

日本語の学術書であれば、基本的にはどこかの大学・研究機関の図書館で所蔵していると考えられるためです。

CiNii Booksに登録がない図書は、出版されたばかりでまだ所蔵されていないか、あるいは学術書でなく娯楽書であるか、のどちらかと考えていただいてかまいません。

NDLサーチでは、国立国会図書館が所蔵する資料や、全国の都道府県立図書館、政令指定都市の図書館などが所蔵する資料を検索することができます。

CiNii Booksで見つからなかった資料も、NDLサーチで見つかることがあるので、あわせて検索してみるとよいでしょう。

図書を検索するときのポイント

書名・著者名に含むキーワードでしか検索できないと想定する

多くのデータベースでこれが基本

自分の入れたキーワードと文字列として一致するかどうか

キーワードの検討がとても大切

同義語や類義語、上位語、下位語を検討する

とくに大切なのが「**上位語**」（ある概念を含むより広い概念）

←図書は中身の分量が多いので、自分で思いつくキーワードよりも
広い概念が書名に入っていることが多い

25

現状、図書を検索できる多くのデータベースでは、残念ながら目次を検索できるものは少ないです。

基本的には、書名や著者名に含まれるキーワードでしか検索できません。

そして、図書を検索するときは、論文を検索するときよりも、注意深くキーワードを選択しなくてはなりません。

同義語や類義語だけでなく、広い概念の上位語、より狭い概念の下位語なども検討してみましょう。とくに大切なのが「上位語」です。

論文にくらべて、図書は扱っている内容の分量が多く、思いついたキーワードよりも広い概念が図書のタイトルになっていることが多いです。

そのため、入力したキーワードでの検索結果が思ったより少ない場合は、上位の概念にあたるキーワードで、再度検索してみてください。

CiNii Booksについて <https://ci.nii.ac.jp/books/>

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

「図書・雑誌」検索タブで目次が検索できるのはほんの一部の資料のみ

AND, ORなどの論理演算子も使える



「内容検索」タブに切り替えると目次や内容説明の検索ができる

ただし、あくまで目次データを持っている資料が対象

全ての資料に対して目次を検索できるわけではない

26

CiNii Booksについて紹介します。

CiNii Booksにアクセスすると、初期選択で「図書・雑誌検索」タブになっています。この状態では、目次が検索できるのはほんの一部の資料のみで、基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できません。

ここから、「内容検索」タブに切り替えると、目次や内容説明を検索できる資料が増えます。

「図書・雑誌検索」タブでの検索でヒットする資料が少ない場合は、「内容検索」タブを試してみても良いでしょう。ただし、全ての資料に対して目次を検索出来ているわけではないので注意が必要です。

CiNii Booksでは、キーワード検索に、AND, ORなどの論理演算子を使うことができます。これについては次の5章で説明します。

[参考] 阪大所蔵資料を発見しやすくする

CiNii Booksを「大阪大学」モードにすると、
大阪大学所蔵資料が
一番上に表示されて便利

キャンパス内からのアクセスであれば
自動的にこのモードになる

大阪大学の
所蔵資料

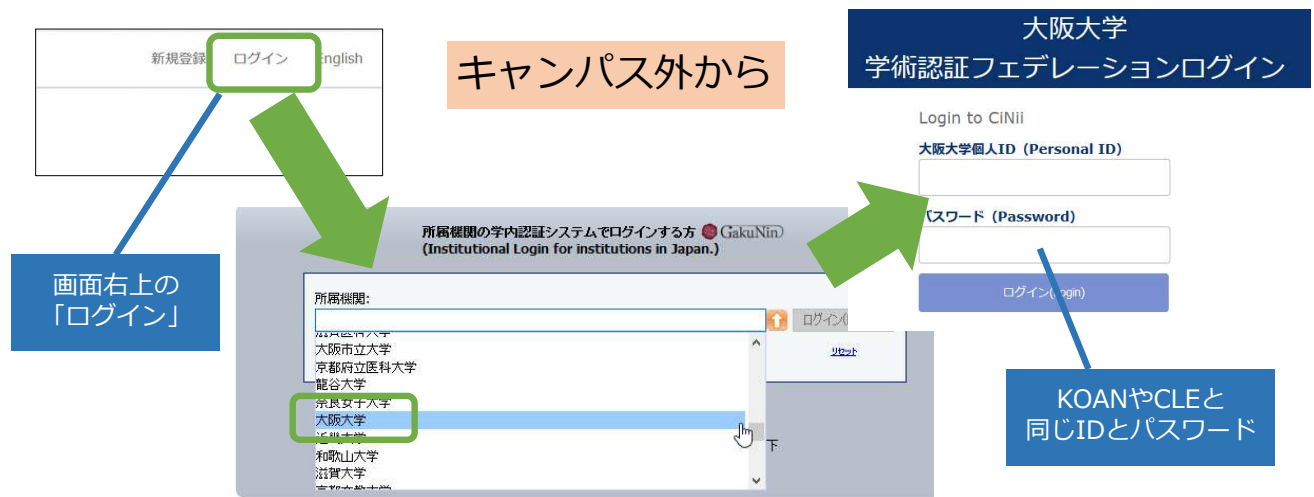


27

CiNii Booksについての参考情報です。

大阪大学のネットワークからCiNii Booksを検索すると、所蔵館リストの一番上に大阪大学の図書館が表示されるようになっていて、大阪大学で所蔵があることが一目でわかって便利です。当たり前ですが大阪大学に所蔵がなければ、所蔵館リストには出てきません。

[参考] 阪大所蔵資料を発見しやすくする



28

キャンパス外からアクセスしたときも、大阪大学の図書館を所蔵館リストの一番上に表示することが可能です。
方法としてはこのスライドのとおりで、CiNii Books画面右上の「ログイン」から、所属機関に大阪大学を設定し、大学の個人IDでログインしてください。

国立国会図書館サーチについて

基本的には書名・著者名・出版社名などでしか検索できない

目次が検索できるのは一部の資料のみ
AND, ORなどの論理演算子も使える



<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>

国立国会図書館サーチで目次データを検索するには
https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/plan/post_1014

2つのデータベースで目次データの主な収録年代が違います。
・CiNii Booksの「内容検索」は1986年以降が主
・国立国会図書館サーチは1987年頃までが主



29

次にNDLサーチについて紹介します。こちら、基本的には書名・著者名・出版者名で検索できるシステムですが、一部の資料については目次を検索できます。目次を検索したいときには、資料種別を絞り込まないようにしてください。

CiNii BooksとNDLサーチでは、目次データの主な収録年代が違います。
CiNii Booksの「内容検索」タブでは主に1986年以降の比較的新しい資料、NDLサーチでは（件数的にデジタルコレクションが多いので、）主に1987年頃までの比較的古い資料の目次データが多くなっています。

とはいえ、実際にNDLサーチを検索してみると、論文集に含まれる個々の論文のタイトルが検索できたりと、最近の図書が内容でヒットすることもあるようです。どうぞ使ってみてください。

OPACでの先行研究調査では不十分？

あくまで大阪大学で所蔵している範囲での検索となる

大阪大学で所蔵していない図書でも、重要な先行研究が存在する可能性は当然ある

大阪大学の図書館で所蔵している資料

→基本的にCiNii Booksに登録されている

そのため、CiNii Booksを検索すれば、大阪大学OPACの中身も基本的に含んでいる

例外：電子ブック / 冊子でも古い資料や一部の研究室所蔵資料はCiNii Booksに未登録

OPACも書名・著者名・出版社名などでしか基本的に検索できません
検索仕様は以下のとおりで、()での掛け合わせはできません。

AND検索 SNS△Instagram

OR検索 SNS△+△ Instagram

※「△」はスペース。半角でも全角でもOK。

※「+」は必ず半角で入力



30

日本語の先行研究を調べるときに、まずは阪大OPACを使われると思いますが、阪大OPACで検索できるのは、阪大が所蔵している図書に限られます。重要な文献が他大学にしかない場合もあるため、阪大OPACだけでは不十分です。阪大が所蔵している図書は、基本的にCiNii Booksにも登録されていますので、CiNii Booksを使えば阪大OPACの内容も含めて概ね検索できると考えてください。つまり、先行研究を幅広く把握するためには、CiNii BooksとNDLサーチの両方を使って調べるのが効率的でおすすめです。漏れなく正確な先行研究調査を行うという観点からすると、CiNii BooksとNDLサーチの両方を活用して、日本語の学術書を幅広く探すと良いでしょう。

5.文献データベースによる 日本語論文の先行研究調査 ーCiNii Researchを事例に



それでは、第5章「日本語論文検索のキソ CiNii Researchを事例に」へ進んでいきます。

適切なデータベースの選択：雑誌論文

全分野 or 特定分野

日本語論文 or 海外論文

分野	国内文献	海外文献
全分野	CiNii Research	Web of Science Scopus、ProQuest
国文学	国文学論文目録データベース	
日本語学	日本語研究・日本語教育文献データベース	
経済学		EconLit
教育学	教育研究論文索引	ERIC
社会学		SocINDEX
医学・薬学	医中誌Web、J-DreamIII	MEDLINE
自然科学・工学	J-DreamIII	

特定分野のデータベースの
ほうが一般的に、
・その分野に関して、収録
論文が多い
・より高度な検索が可能
(シソーラス等⇒補遺参照)

これら是一例です。
附属図書館Webサイトの
データベース一覧を一度チェッ
クしてみてください。

32

雑誌論文を探すときは、2つの視点でデータベースを選ぶのが基本です
そのデータベースが、全分野を対象にしたものか、特定分野に特化したものか、
そして、日本語論文か、海外論文か という視点です。
「全分野型があれば、特定分野型はいらないのでは？」と思うかもしれませんが、
特定分野型のデータベースの方が、その分野の論文が豊富で、検索機能も充実し
ていることが多いです。

CiNii Researchとは

<https://cir.nii.ac.jp/>

日本語論文を探すための文献データベースの代表格

主に日本語の雑誌論文が対象
分野を限定せず、幅広く収録
検索機能は残念ながら強くないので、
工夫して利用する必要がある（後述）



事例としてCiNii Researchを使う理由

人文社会科学系では特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、
実質的にCiNii Research一択であるため
この後紹介する検索の考え方は他のデータベースを利用する際にも通じるため

33

今回は、CiNii Researchというデータベースを使って、日本語論文の検索方法を解説します。

CiNii Researchは、全分野型のデータベースで、研究データ・雑誌論文・図書・博士論文などを含めて広く検索ができる学術情報データベースです。今回のように雑誌論文に限定して検索をするような場合には、スライドにあるとおり、事前に「論文」タブを選択しておくか、または、初期設定の「すべて」で検索した後、に、「論文」で絞り込むことができます。

人文社会科学系では、特定分野型の日本語論文データベースが無い分野がほとんどで、ほぼCiNii Research一択となります。
今日ここで紹介する方法は、具体的な操作方法というよりも、検索のコツが中心なので、他のデータベースでも同じような考え方で使っていただけます。

ここで補足情報です。このCiNii Researchには、スライド26～28で紹介したCiNii Booksのデータが収録されています。
2025年度後半には、CiNii BooksはCiNii Researchに統合される予定ですが、統合されるまでは、図書はCiNii Booksの方で検索していただいたほうがわかりやすいと思います。

では次から実際に検索をしていきます。

検索例題

選挙活動とウェブ動画の関係性についての先行研究調査

対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみとする



CiNii Researchで「選挙 動画」で論文を検索
→19件のみヒット

もっと文献がありそうな気がするのだけれど…



34

では、論文の検索をしてみましょう。みなさんもパソコンやスマートフォンなどで、実際にCiNii Researchで検索しながら学習してください。
Googleで「CiNii」や「CiNiiスペースR」と検索していただくとCiNii Researchに簡単にたどりつけます。

ここでは、「選挙活動とウェブ動画の関係性」というテーマで先行研究調査を行います。
まず思いつく、2つのキーワード「選挙」と「動画」を入力して検索してみると何件ヒットするでしょうか。

私のほうでも画面を切り替えて検索してみますね。スライドでは論文が19件ヒットした画面を表示しています。

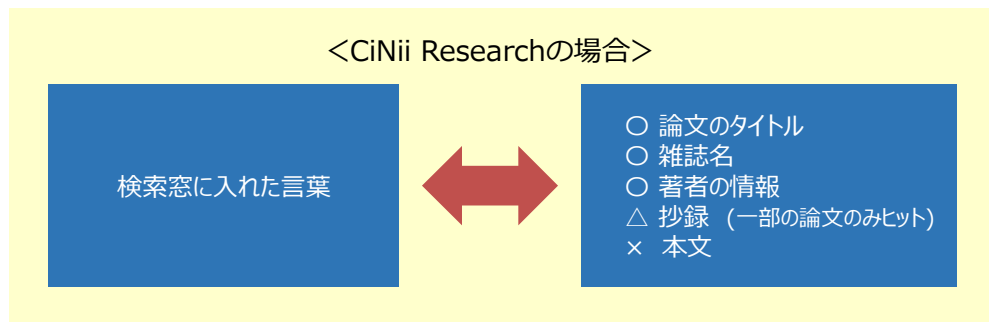
本当にこのテーマの論文はこんなに少ないのでしょうか？この後、いくつかのポイントを解説しながら、検証していきます。

※検索結果の件数は2025/6/26時点のものです。

ポイント1：データベースの検索方式

CiNii Researchは単純な「キーワード検索方式」

検索窓に入れた言葉と、論文タイトルなどで使われている言葉が
完全に一致すれば、検索結果として返ってくる



35

検索のポイントの一つ目は、データベースの検索方式に注意する、ということです。

CiNii Researchは「キーワード検索方式」のシンプルなデータベースです。入力したキーワードが、論文タイトル・雑誌名・著者名などに完全に一致している場合のみ検索結果に表示されます。一致しない場合はヒットしません。

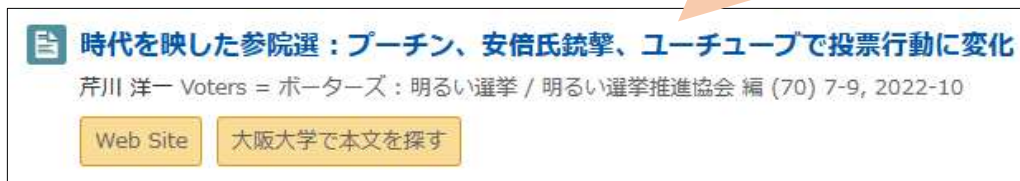
ポイント1：データベースの検索方式

完全に一致しないとヒットしないとはどういうことか

例えば以下の論文だと…

- ×「選挙 動画」→ヒットしない
- ×「選挙 YouTube」→ヒットしない
- 「選挙 ユーチューブ」→ヒットする

人の目で見れば、
関係のある論文なのは明らかなのに…



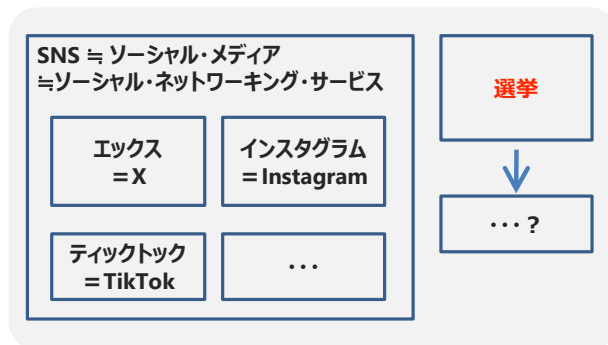
36

さて、完全に一致しないとヒットしない、とはどういうことでしょうか。
例えば、スライドに表示している文献「時代を映した参院選：プーチン、安倍氏銃撃、ユーチューブで投票行動に変化」は、今回探しているテーマに関係しているように思えますが、さきほどの検索ではヒットしません。
この文献は、「選挙 スペース 動画」や「選挙 スペース YouTube」ではヒットせず、「選挙 スペース ユーチューブ」の検索でようやくヒットします。
文献のタイトルに含まれているとおり、カタカナでYouTube、と入力しないとヒットしないのです。

そのため、次のポイントであげるような工夫が必要になってきます。

ポイント2：キーワードの検討

キーワード検索方式の場合、キーワードの選択が非常に重要
同義語、類義語、上位/下位語を検討する



自分でうまく思いつかないときは、
参考図書などを使って探してみましょう

37

検索のポイント2つ目は、キーワードを検討することです。

CiNii Researchのようなキーワード検索方式の場合、キーワードとして何を選択するかが重要になります。

同義語や、類義語だけでなく、キーワードからみてより広い概念の上位語、あるいは、より狭い概念の下位語なども検討してみましょう。

たとえば、SNSというキーワードは、「ソーシャル・メディア」「ソーシャル・ネットワーキング・サービス」という表現がされているかもしれません。

また下位語としては、エックスやインスタグラム、ティックトックといった、具体的なサービス名称で表現されていることも考えられるでしょう。

そしてさらに、それぞれのサービス名称についても、言い換えや表記方法の違いを考えてみる必要があります。

次に、選挙というキーワードについても検討しましょう。自分で考えてみても、他のキーワードが見つからないときには、参考図書などを使って探してみるといいでしょう。

ポイント2：キーワードの検討

百科事典や辞書類（冊子/オンライン）

例：JapanKnowledge Lib 複数の辞書・事典をまとめて検索できる

[附属図書館Webサイト](#) TOPページの検索窓上側の「データベース」タブから
自宅から使うときは検索窓下側の「**キャンパス外から電子リソースを使う**」から



参考図書とは、百科事典や辞書などのことです。参考図書にはオンラインで使えるものもあります。

例えば「JapanKnowledge Lib」は、複数の辞書・事典をまとめて検索できるデータベースです。

「JapanKnowledge Lib」は、自宅からも使うことができます。スライドの緑の枠や矢印が自宅から使う方法になります。

阪大図書館WebサイトのTOPページ検索窓の下側、「キャンパス外から電子リソースを使う」からアクセスすると、認証画面を経由して、KOANのIDとパスワードでログインすることで使えます。

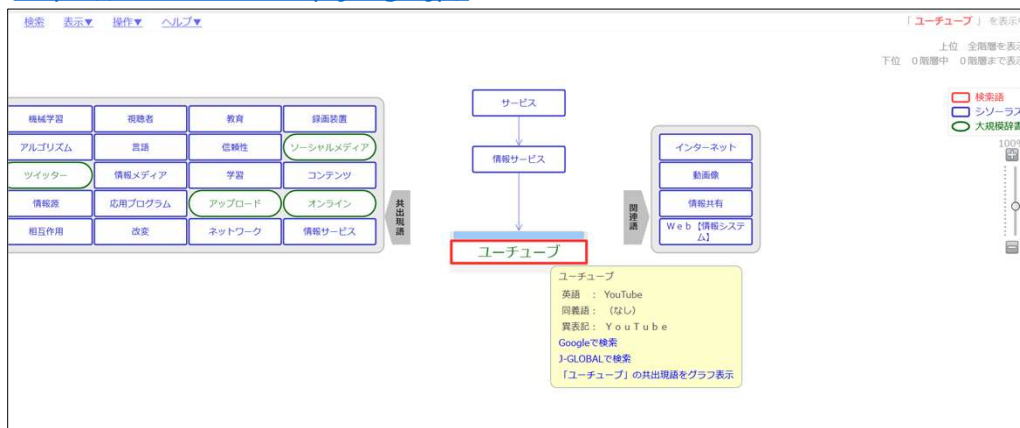
また、タブをデータベースに切り替えて「すべてのタイトルを表示」をクリックすると、阪大で契約しているデータベースの一覧が表示されますが、その中で、タイトルの隣にRという赤いアイコンがついていれば、リモートアクセスできるつまりキャンパス外からも使えるデータベースですよ、というしるしです。その右の「Off Campus Access」をクリックすると、認証画面が表示されKOANのIDとパスワードでログインして使ってください。

ポイント2：キーワードの検討

関連する単語を視覚的に得ることができるツール

科学技術振興機構(JST)「シソーラスmap」 科学技術分野の専門用語を中心に

<https://thesaurus-map.jst.go.jp/>



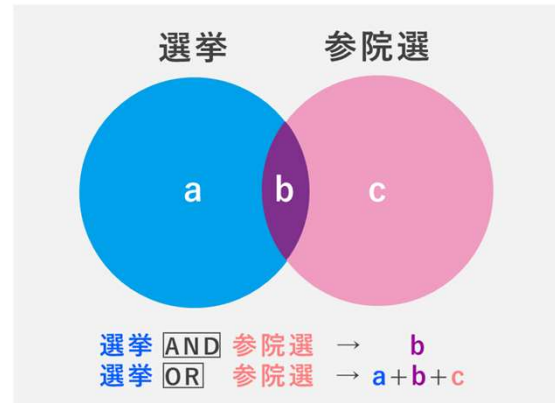
39

キーワードを得るのに便利なツールをここで一つご紹介します。科学技術振興機構が提供している、「シソーラスmap」というツールです。科学技術分野の専門用語が中心なのですが、スライドのように一般的な用語も入っています。ある単語の上位・下位の概念や、関連する単語を視覚的に得ることができます。

ポイント3：論理演算（AND/OR など）

種類	CiNii Researchでの入力方法
AND 検索	選挙△参院選 「選挙」と「参院選」両方の キーワードを含む資料を検索
OR 検索	選挙△OR△参院選 「選挙」もしくは「参院選」の どちらかのキーワードを含む資料を検索

※「△」はスペース（半角でも全角でもOK）



40

検索のポイントの3つ目は、論理演算を上手に使うことです。論理演算を駆使して、集めたキーワードを有効に活用しましょう。

最もよく使う論理演算としては、AND検索とOR検索の2つです。

AND検索は入力した全てのキーワードを含むものを検索する方法です。CiNii Researchではキーワードの間にスペースを入れるとAND検索になります。

Googleなど一般的な検索のイメージと同じです。

一方、OR検索は、入力したキーワードのどれか1つを含めば良い、という検索方法です。CiNii Researchではキーワードとキーワードの間に大文字の「OR」を入力することで、OR検索になります。

AND検索は検索結果を減らすことになり、OR検索は検索結果を増やす検索方法といえます。

ポイント3：論理演算（AND/OR など）

キーワード検索方式

不要な論文のヒットは少なくなるが、必要な論文も漏れてしまう恐れ

OR検索を有効に使用する

ポイント2で得た同義語、類義語、上位/下位語をOR検索で活用する
より漏れが少ない形での検索ができる

データベースによって、
・使用できる論理演算の種類
・その論理演算の入力方法
は異なります。
新しいデータベースを使う時は、ヘルプを確認してみると良いです。



41

繰り返しになりますが、CiNii Researchは入力したキーワードに完全に一致しなければヒットしないため、必要な論文が検索結果から漏れてしまう恐れがあります。

そこで今回は、OR検索を活用してみます。複数のキーワードをOR検索を使って組み込むことで、より漏れが少ない形での検索ができます。

なお、データベースによって、使用できる論理演算の種類や入力方法は異なりますので、新しいデータベースを使うときは、まずヘルプページやマニュアルを確認してみることをお勧めします。

では、次から検索を実際に行ってみましょう。

検索例題を実際にやってみよう

検索例題：

選挙活動とウェブ動画の関係性についての先行研究調査

- 対象の雑誌論文はひとまず日本語のもののみ
- 使用するデータベースはCiNii Research
<https://cir.nii.ac.jp/>

- 検索式の中の「△」はスペース。
半角でも全角でもOK。
- CiNiiでは()で囲んだ箇所はグループとなって、
検索式上で優先されます。
- ヒット件数は2025年6月26日時点

検索式①「選挙△動画」

The screenshot shows the CiNii Research search results page for the query '選挙 △ 動画'. A yellow circle with the text '19件' is overlaid on the search bar area. The search bar contains the text '選挙 △ 動画' and a '検索' button. Below the search bar, there are tabs for different document types: 'すべて' (26), '研究データ' (0), '論文' (18), '本' (4), '博士論文' (0), and 'プロジェクト' (4). The '論文' tab is selected. A '詳細検索' button is visible on the right.

42

それでは、ここまでご紹介した3つのポイントを踏まえて、実際に検索例題をやってみましょう。

先の検索で、「選挙 スペース 動画」では19件しかヒットしませんでした。AND検索をしたことで、2つのキーワードの両方を含むものが検索にヒットしました。検索結果を増やすために、まずは「選挙」のほうの同義語、類義語、上位・下位語や関連語を検討します。

※検索結果の件数は2025/6/26時点のものです。

検索例題を実際にやってみよう

キーワード：選挙

改善策の検討

- ・件数が明らかに少ないので、「選挙」の同義語、類義語、上位/下位語を検討
- ・類義語「投票」、下位語「衆院選」「参院選」、関連語「政治」
- ・関連キーワードを思いつかないときは、ポイント2で紹介した参考図書やツール類を使う
→JapanKnowledge Libで「選挙」を検索すると、「有権者」「政党」といった関連キーワードが見つかった

検索式② <選挙のグループ> AND 動画

(選挙△OR△投票△OR△衆院選△OR△参院選△OR△有権者△OR△政治△OR△政党)
△動画

65件

「選挙」のキーワードの広げ方としては悪くなさそうだが…

- ・検索式「選挙」→約45,700件
- ・検索式「選挙△OR△投票△衆院選△OR△参院選△OR△有権者△OR△政治△OR△政党」→約310,100件と増加

43

選挙の言い換えとして、「投票」という類義語を用意しました。また、下位語の「衆院選」「参院選」、関連語の「有権者」「政治」も使ってみましょう。

自分でキーワードが思い浮かばないときは、ポイント2で紹介した参考図書やWebサイトを使うと良いでしょう。

例えば、ジャパンナレッジで「投票行動」で検索してみたところ、「有権者」「政党」「インターネット選挙」「公職選挙法」といった関連キーワードを入手できたのですが、

このうち、「インターネット選挙」「公職選挙法」という語は「選挙」で検索すれば必ずヒットするので、検索語には含めなくても大丈夫です。

これらを使ってOR検索を試してみます。

追加したキーワード全てを「OR」でつなげて、()でくくると、その部分をグループ化することができます。

こうして、選挙という概念に関するひとつのグループができました。このグループと、「動画」とのAND検索という形で検索するとどうなるでしょうか。

画面を切り替えますね。そうすると、結果は65件でした。19件から増えていますよね。

次は「動画」の方のキーワードを検討してみましょう。

検索例題を実際にやってみよう

キーワード：動画

改善策の検討

- ・「動画」側のキーワードを広げることを考える
- ・とくに広く使われている動画共有サービスであるYouTubeと、動画の投稿先として選定されるSNSであるInstagramとTikTokを追加してみる
- もれなく探すため、日本語表記と英語表記を両方キーワードに入れる。

検索式③ <選挙のグループ> AND <動画のグループ>

(選挙△OR△投票△OR△衆院選△OR△参院選△OR△有権者△OR△政治△OR△政党)

△(動画△OR△YouTube△OR△ユーチューブ△OR△YouTuber△OR△ユーチューバー△OR△Instagram△OR△インスタグラム△OR△TikTok△OR△ティックトック)

95件

44

「動画」の関連語として、YouTubeやInstagram、TikTokを用意しました。日本語論文では、twitterやfacebookは、英語表記とカタカナ表記の両方が使われる可能性があるのでどちらも候補に入れます。

「選挙」のキーワードのグループを作ったときと同様に、全てを大文字の「OR」でつなげ、()でくくります。こうすることで、選挙のグループと、動画のグループが、AND検索という形でつながります。

こちら実際に画面を切り替えてみますね。改めて検索すると、結果は96件になりましたね。また少し増えました。

つぎでさらに検討してみます

検索例題を実際にやってみよう 検索結果から

改善策の検討

検索結果の論文タイトルを眺めていると

「ディープフェイク」も関連キーワードとして

使えるのではないかと考えた

選挙運動においてフェイク動画が用いられていると

指摘する文献が複数見つかった

米国大統領選挙とディープフェイク

湯淺 肇道, YUASA Harumichi 情報処理 65 (7), 344-346, 2024-06-15

...2024年の米国の大統領選挙は世界的に注目されているが、近年急速に普及している生成系AIとそれを利用した偽造・合成の音声や動画像（ディープフェイク）が選挙運動において多用され、有権者が適切な判断ができなくなることが懸念されており、各州において州選挙法を改正してディープフェイクを規制しようとする動きが活発化している。また連邦通信委員会は生成系AIによって生成された音声によるロボコール（自動電話勧誘）を...

DOI

情報処理学会

大阪大学で本文を探す

Key Wordで世界を読む(Number 265)deepfake ディープフェイク：アポロ11号の月面着陸失敗？ 偽ビデオが米大統領選挙に向けて脅威に

牧野 洋 Diamond weekly = 週刊ダイヤモンド 107 (48), 88-, 2019-12-14

Web Site

大阪大学で本文を探す

検索式④ <選挙のグループ> AND <動画のグループ>

(選挙△OR△投票△OR△衆院選△OR△参院選△OR△有権者△OR△政治△OR△政党)
△(動画△OR△YouTube△OR△ユーチューブ△OR△YouTuber△OR△ユーチューバー△OR△
Instagram△OR△インスタグラム△OR△TikTok△OR△ティックトック△OR△
ディープフェイク△OR△deepfake △OR△フェイク動画)

105件

45

さらに、もう少し検索結果を広げる方法はないかを考えてみます。ここでヒントになるのは検索結果に出てきている論文タイトルなどです。検索結果を簡単に見ていくと、他にも見えそうなキーワードを得られることが多いです。ここでは「ディープフェイク」も関連するキーワードとして活用できそうなので使ってみます。

動画のグループのほうに「ディープフェイク」とその関連語をORで追加してスライドのようにして検索してみると、100件を超えました。最初の19件から比べると、かなり増やすことができました。これでもまだ少ないと思われるときは、これまで紹介した方法を使って検索式をさらに改良してみてください。

これで検索例題は終了です。

文献データベースでの検索では、キーワードや検索式を工夫することが非常に重要だと実感していただけたなら幸いです。

データベース検索で心がけること

予測と検証

自分の直感的な気付きを大切に。

「このキーワードでこれだけしか文献が無いのはおかしい」

→上位/下位語、類義語、同義語を探してみる（ポイント2、ポイント3）

「このキーワードでこんなにたくさん文献がヒットするのは何か変だ」

→検索結果を眺めて、自分の予期しないヒットの仕方をしていないか確認
キーワードを変更したり、AND検索で検索結果を絞り込んだりする

検索式と件数などを記録しておく

記録しておくことで、検索式の調整が簡単になる

しばらくしてから、先行研究調査を再度行う際にも便利

46

データベース検索でここがけることを最後に2つ紹介します。

1つ目は、予測と検証が大事、ということです。キーワードや検索式は、ばらばらと思いつきで作成するのではなく、予測を立て、検証をしながら、改良をしていきましょう。

2つ目は、検索式と件数を記録しておくのがおすすめ、ということです。

いろいろな検索式を試していると、どの検索式で良い結果が得られたのかよく分からなくなってきました。各検索式での件数を随時記録しておく、と、検索式の調整がスムーズです。

そして、先行研究調査は1度行って終わりではありません。研究を続けていく場合、定期的に調査が必要なタイミングがあります。検索式を記録しておけば、再調査もスムーズかと思います。

選別作業：検索式の検討が終わったら

検索結果一覧から自分の目で選別する

論文のタイトル、抄録（あれば）、掲載された雑誌 などをもとに選別する
無理に検索式で絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがある
100～200件程度ならば、人目でじゅうぶん選別可能

「すぐに入手できるかどうか」は選別基準に入れないこと

データベース画面上で見るとPDFファイルがあるものに引っ張られがち
→いったん検索結果を印刷したり、エクセルのリストに出力したりするほうが、
まんべんなく目を通しやすい

選別作業が完了して初めて入手作業へ進む！

具体的な入手方法は、本シリーズのもう1つの講習会「フルテキスト入手法」で！

47

ある程度納得できる検索式を得られたら、検索結果からの選別を自分の目で行います。

無理に検索式で件数を絞り込みすぎると、有用な論文を取りこぼしてしまうことがあります。100～200件程度ならば、自分の目でざっとチェックできますね。

論文のタイトルや掲載された雑誌名などをもとに選別をしていきます。CiNii Researchは論文の要約にあたる抄録が含まれているものもありますので、抄録を参考にして選別するのも良いでしょう。

選別の際には「今すぐに入手できるかどうか」ということは基準に入れないでください。

データベース画面では、どうしてもPDFファイルなどですぐに入手できる文献に惹かれがちですが、先にもお伝えしました通り、すぐに入手できないものでも重要論文である可能性がありますので、入手の可否は考えずに選別作業を行いましょう。

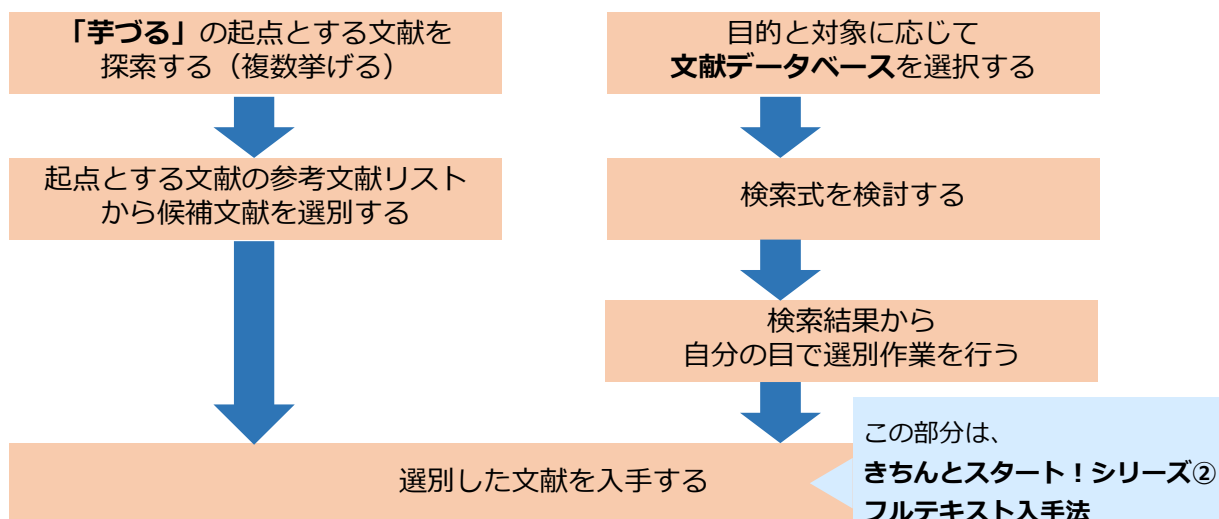
そして選別作業が完了してからはじめて、実際の入手作業を行います。この入手作業については、2つ目の教材「学部4回生・大学院生のためのフルテキスト入手法」でご紹介します。

まとめ



最後に、この教材のまとめです。

先行研究調査での文献探索～入手までの流れ（おさらい）



先行研究調査での論文検索から入手までの流れは概ねこのような形です。

左側のラインが「芋づる式」の調査方法、右側のラインが文献データベースによる調査方法です。

片方の方法でしかうまく見つけることが出来ない文献もあるはずです。両方の方法をしっかり併用して、漏れの無い先行研究調査へとつなげてゆきましょう。

そして、今日学んだことを、実際に手を動かして身に付けていただければと思います。

ご相談ください

総合図書館B棟2F 参考調査カウンター

- 職員がお待ちしています
- 平日9:00-17:00（事前予約不要）
- オンライン・[メール](#)での相談も受け付けます

大阪大学附属図書館 レファレンスデスク

https://www.library.osaka-u.ac.jp/research/reference_desk/

- メール・フォーム・オンラインでの相談受付中
- 附属図書館4館のレファレンス・スタッフが
随時ご相談・参考調査に応じています



レファレンス・デスク



大阪大学附属図書館

実際にやってみると、それぞれのデータベースの使い方や、適切なデータベースの選択、検索式やキーワードの検討などで迷ったり困ったりすることがあるかと思えます。

その際は、ぜひ総合図書館参考調査カウンターへご相談ください。

平日の9時から17時の間、私たち職員がお待ちしています。また、オンラインやメールでの相談も受け付けています。どうぞお気軽にご利用ください。

また、大阪大学附属図書館の4館のレファレンス・スタッフが随時ご相談や調査を受け付けています。メール・フォーム・オンラインの方法で可能ですので、詳しくは、画面のQRコードから図書館Webページをご覧ください。

参考文献リスト

明石芳彦(2018)『社会科学系論文の書き方』ミネルヴァ書房.

秋山哲雄, 田中大喜, 野口華世編(2021)『日本中世史入門：論文を書こう』増補改訂新版. 勉誠出版.

味岡美豊子(2009)『社会人・学生のための情報検索入門』ひつじ書房.

白井利明, 高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方』第2版. ミネルヴァ書房.

藤田節子(2007)『キーワード検索がわかる』筑摩書房.

村上紀夫(2019)『歴史学で卒業論文を書くために』創元社.

矢田竣太郎(2025)「動向レビュー：生成AIを用いた文献調査ツール」『カレントアウェアネス』 362号、p. 6-10.

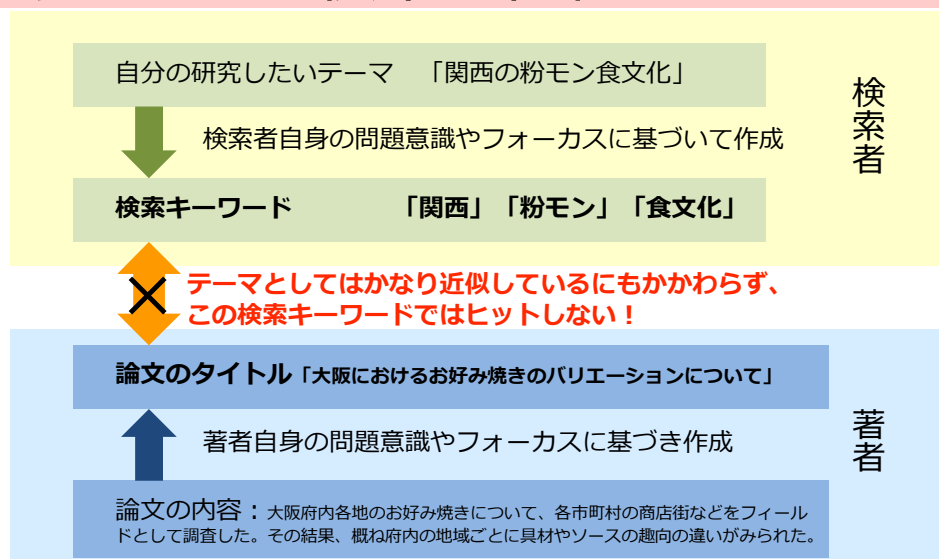
補遺： シソーラスを備えた データベース



ここでは補遺として、シソーラスを備えたデータベースについて紹介します。

シソーラスとは、見出し語と、見出し語同士の関係をセットで収録した「言葉のネットワーク辞書」のようなものだと思います。シソーラスを組み込んだデータベースでは、文献に出てくる言葉も、私たちが検索に使う言葉も、シソーラス内の見出し語に紐づけられ、検索のマッチング率が高まるような設計がなされています。

シソーラスの無いデータベースの キーワード検索の仕組み

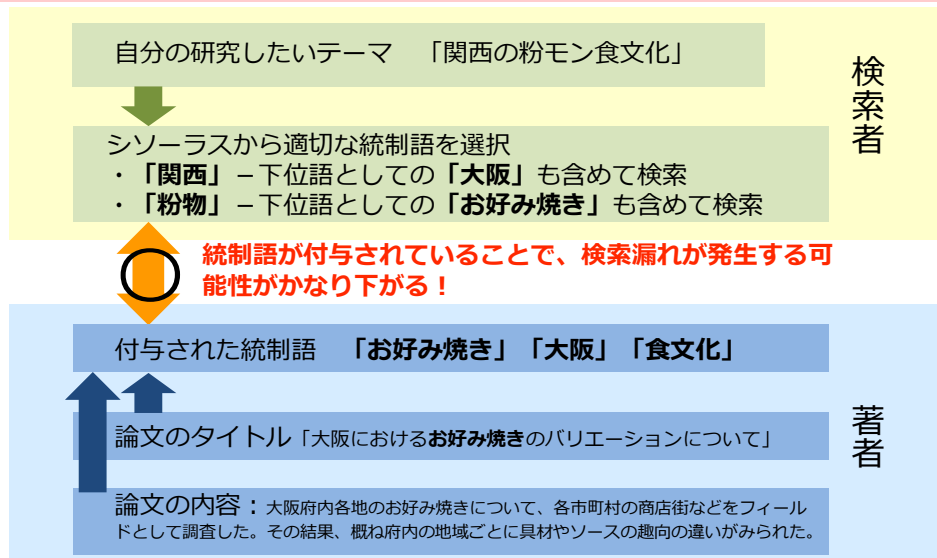


まず、こちらは教材の本編でも紹介しました、CiNii Researchなどシソーラスの無いデータベースの検索の仕組みです。

キーワードと論文のタイトル等が完全に一致しないとヒットしない、というお話をしました。

こちらの例では、「関西」というキーワードでは「大阪」というタイトルがヒットしない、「粉モン」というキーワードでは「お好み焼き」がヒットしない、ということが起こっていますね。

シソーラスのあるデータベースの 統制語検索の仕組み



一方で、シソーラスのあるデータベースではどうでしょうか。
シソーラスの整備された文献データベースでは、各文献に対して、統一されたタグ
= 「統制語」が付与されています。
定められた基準に基づいて、同じテーマを扱う文献には同じ「統制語」が付与され
ます。

1つの論文のテーマが多面的にとらえられることもよくあるので、その場合は、複
数の「統制語」が付与されます。このようにルール付けされた統制語があれば、そ
の統制語を用いることで、漏れなく検索することができます。

よく整備されたシソーラスのあるデータベースならば、下位語までまとめて検索し
たりできて大変便利です。

シソーラスを備えたデータベースを利用するメリット

検索漏れが発生しづらくなる

概念ごとに使用することばを決めているので、同義語・類義語を検討する必要がない
下位語を含んだ検索が可能なデータベースも多い

【注意点】 検索に使用する統制語を選択するのは自分

統制語の選択を用心して行わないと、シソーラスのメリットを発揮できない

先行研究調査はできるだけ「漏れなく」検索したいので、
シソーラスを備えたデータベースを使うのがおすすめ

シソーラスを備えたデータベースを利用するメリットは、検索漏れが発生しづらくなることです。

同じテーマの論文には同じ統制語が付与されているため、教材の本編で説明したような同義語・類義語を検討する必要がありません。

先の例のように、下記語を含んだ検索が可能なデータベースも多いです。

注意点としては、検索に使用する統制語を選ぶのは自分自身だということです。シソーラスの統制語リストを良く見渡して、どの統制語を選ぶか、ということを用意して行わないと検索漏れが起きてしまう恐れがあります。

こういった注意点はありますが、先行研究調査はできるだけ「漏れなく」行うことを目指していますので、自分の専門分野にシソーラスを備えたデータベースがあるならば、それを使うことがおすすめです。

シソーラスを備えたデータベースの例

日本語論文のデータベース

J-Dream III（科学技術・医学・薬学）、医中誌web（医学）

残念ながら日本語論文のデータベースでは、CiNii Researchなどシソーラスを備えていないデータベースがほとんど

海外論文のデータベース

特定分野型のデータベースはシソーラスを備えているものが多い
シソーラスの付与の精度はさまざま

新しく文献データベースを使い始めるときには、
シソーラスを備えたデータベースかどうか確認してみるのがオススメです



具体的に、シソーラスを備えたデータベースを紹介します。

まず、日本語論文のデータベースです。科学技術・医学・薬学分野のJ-DreamIII、医学分野の医中誌webが挙げられます。

残念ながら、日本語論文のデータベースは、シソーラスの無いデータベースがほとんどです。

一方で、海外論文のデータベースについて、特定分野型のデータベースであれば、シソーラスを備えているものが多いです。

新しい文献データベースを使い始めるときは、シソーラスを備えたデータベースかどうかを確認してみて、シソーラスがあればぜひ有効活用しましょう。

補遺は以上です。e-learning教材をご覧いただき、ありがとうございました。